

ノムラ THE ASIA

Aコース(米ドル売り円買い) / Bコース(為替ヘッジなし)

追加型投信 / 海外 / 株式

交付運用報告書

第9期(決算日2019年10月28日)

作成対象期間(2019年5月8日~2019年10月28日)

<Aコース>

第9期末(2019年10月28日)	
基準価額	7,823円
純資産総額	53百万円
第9期	
騰落率	△ 8.1%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

<Bコース>

第9期末(2019年10月28日)	
基準価額	7,598円
純資産総額	511百万円
第9期	
騰落率	△ 9.3%
分配金(税込み)合計	0円

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢーアジアン・エクイティークラスA / クラスB受益証券および野村マネーマザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてアジア諸国の株式(DR(預託証券)、上場投資信託証券および償還金額等が株式の価格や株価指数に連動する効果を有するリンク債等を含みます。)に実質的に投資を行い、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。

ここに、当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

野村アセットマネジメント

東京都中央区日本橋1-12-1



サポートダイヤル 0120-753104
(受付時間) 営業日の午前9時~午後5時

ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供することができる旨を定めております。運用報告書(全体版)は、野村アセットマネジメントのホームページで閲覧・ダウンロードしていただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記ホームページを開く

⇒「ファンド検索」にファンド名を入力しファンドを選択

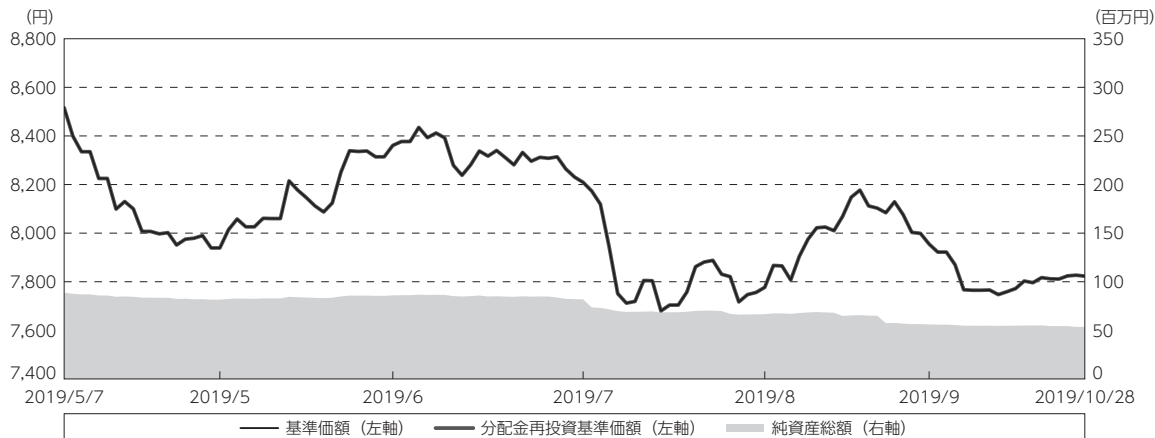
⇒ファンド詳細ページから「運用報告書(全体版)」を選択

〈Aコース〉

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2019年5月8日～2019年10月28日)



期首：8,516円

期末：7,823円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 8.1% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2019年5月7日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首の8,516円から期末には7,823円となりました。

- ・ 実質的に投資しているアジア株式からのキャピタルゲイン (またはロス) (価格変動損益)
- ・ 実質的に投資しているアジア株式からのインカムゲイン
- ・ 円/米ドル為替取引によるコスト (金利差相当分の費用) またはプレミアム (金利差相当分の収益)
- ・ 米ドル/投資先通貨の為替変動

1万口当たりの費用明細

(2019年5月8日～2019年10月28日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 42	% 0.523	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率
(投信会社)	(11)	(0.141)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
(販売会社)	(29)	(0.366)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
(受託会社)	(1)	(0.016)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) その他費用	0	0.001	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.001)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	42	0.524	
期中の平均基準価額は、8,048円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

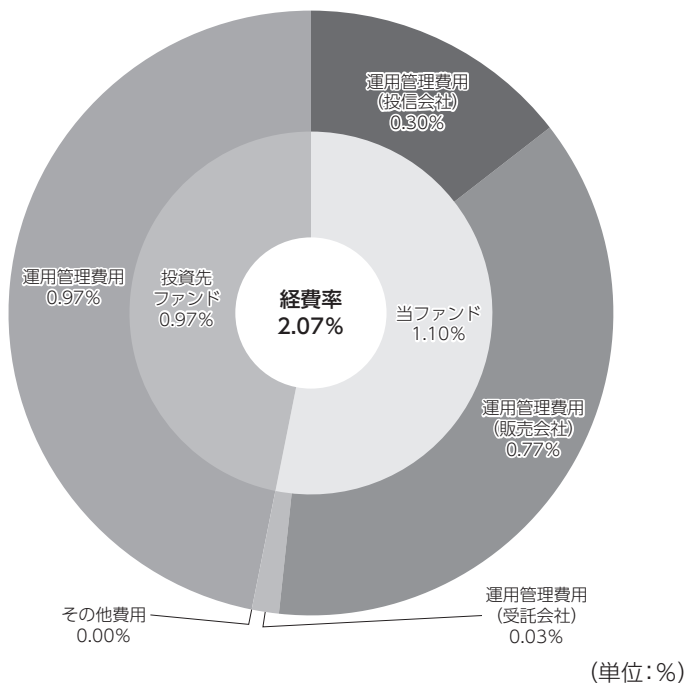
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は2.07%です。



経費率(①+②)	2.07
①当ファンドの費用の比率	1.10
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.97

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2014年10月27日～2019年10月28日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 当ファンドの設定日は2015年6月29日です。

	2015年6月29日 設定日	2015年10月27日 決算日	2016年10月27日 決算日	2017年10月27日 決算日	2018年10月29日 決算日	2019年10月28日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,032	8,876	10,059	7,989	7,823
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	10	10	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 9.7	△ 1.7	13.4	△ 20.5	△ 2.1
純資産総額 (百万円)	388	422	139	124	101	53

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2015年10月27日の騰落率は設定当初との比較です。
 (注) 当ファンドは、主として外国籍ファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

投資環境

(2019年5月8日～2019年10月28日)

アジア(除く日本)市場は、中国人民銀行(中央銀行)が金利改革を公表したことや、市中銀行の預金準備率を引き下げたことなどから上昇する場面がありましたが、米中通商協議の先行き不透明感や、協議の長期化観測の高まりなどを背景に、当期間では値下がりとなりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2019年5月8日～2019年10月28日)

[ノムラ THE ASIA Aコース]

[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスA] 受益証券および[野村マネー マザーファンド] 受益証券を主要投資対象とし、投資の中心とする[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスA] 受益証券への投資比率は、概ね高位を維持しました。

[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスA]

主要投資対象である[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスA]のポートフォリオにおける株式等組入比率は、2019年12月19日信託終了（繰上償還）に向け、保有有価証券の売却を行ったため、当期末現在で、33.4%となりました。同ポートフォリオにおける業種別配分は、当期末現在で、情報技術、一般消費財・サービス、資本財・サービスなどの比率が高めとなりました。国別配分では、台湾、韓国、中国などの比率が高めとなりました。組入外貨建資産については、原則として純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行いました。

[野村マネー マザーファンド]

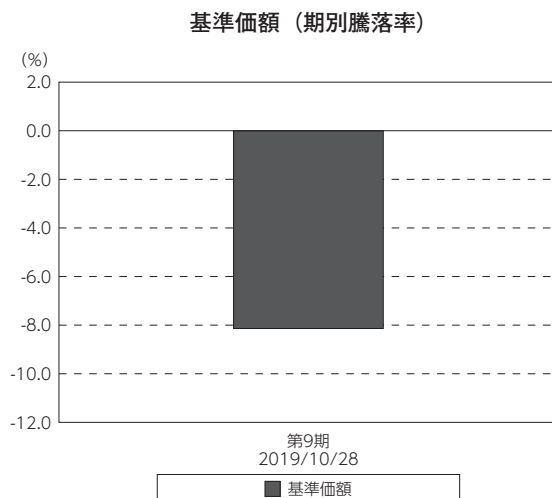
残存1年以内の公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資を行い、あわせてコール・ローン等で運用を行うことで流動性の確保を図りました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2019年5月8日～2019年10月28日)

当ファンドは、主として外国籍ファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

グラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

分配金

(2019年5月8日～2019年10月28日)

収益分配については、繰上償還が決定していることや、基準価額水準等を勘案して見送らせていただきました。

留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり・税込み)

項目	第9期
	2019年5月8日～2019年10月28日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	— %
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	180

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

[ノムラ THE ASIA Aコース]

[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスA] 受益証券および[野村マネー マザーファンド] 受益証券を主要投資対象としますが、投資の中心とする[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスA] 受益証券は、2019年12月19日信託終了(繰上償還)に向け、受益証券の全売却を行い、現金化されたポートフォリオを維持する方針です。

[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスA]

2019年12月19日信託終了(繰上償還)に向け、保有有価証券の全売却を行い、現金化されたポートフォリオを維持する方針です。

組入外貨建資産については、原則として純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行うことを基本とします。

[野村マネー マザーファンド]

残存1年以内の公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資を行い、あわせてコール・ローン等で運用を行うことで流動性の確保を図って運用いたします。

日本銀行によるマイナス金利政策のもと、主要な投資対象となる公社債の利回りや余資運用の際のコール・ローンの金利もマイナスとなる中、マイナス利回りの資産への投資等を通じて、基準価額が下落することが想定されますのでご注意ください。

今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、よろしく願いいたします。

お知らせ

該当事項はございません。

当ファンドの概要

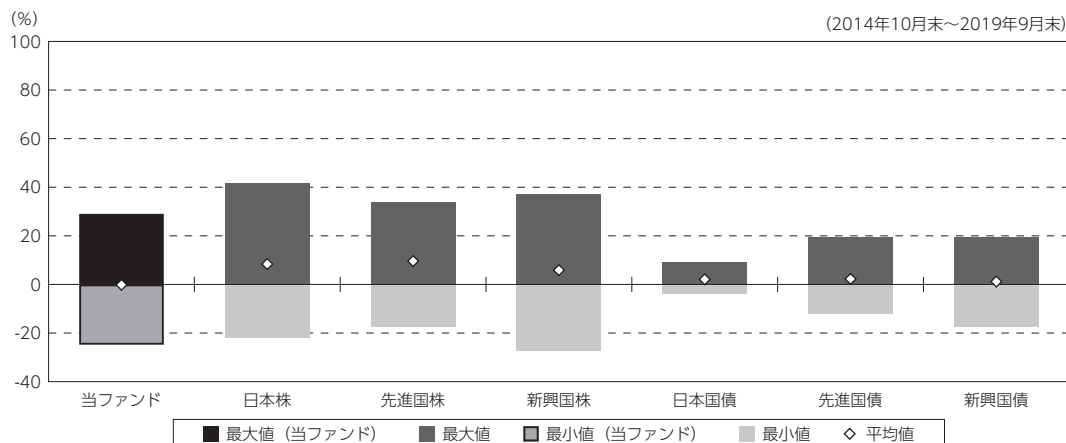
商品分類	追加型投信/海外/株式	
信託期間	2019年12月19日をもちまして繰上償還いたします。(設定日2015年6月29日)	
運用方針	主として円建ての外国投資信託であるノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ-アジア・エクイティークラスA受益証券および円建ての国内籍の投資信託である野村マネー マザーファンド受益証券への投資を通じて、アジア諸国の株式 (DR (預託証券)、上場投資信託証券および償還金額等が株式の価格や株価指数に連動する効果を有するリンク債等を含みます。) を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。各受益証券への投資比率は、通常の場合においては、ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ-アジア・エクイティークラスA受益証券への投資を中心としますが、特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびに当ファンドの資金動向等を勘案のうえ決定します。投資する外国投資信託において、実質的な通貨配分にかかわらず、原則として純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行います。したがって、保有する実質的な外貨建て資産について対円為替ヘッジを行うことを目的としていません。	
主要投資対象	ノムラ THE ASIA A コース	ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ-アジア・エクイティークラスA受益証券および野村マネー マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、コマーシャル・ペーパー等の短期有価証券ならびに短期金融商品等に直接投資する場合があります。
	ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ-アジア・エクイティークラスA	アジア諸国・地域の企業の株式およびアジアにおいて主要な事業活動に従事しているアジア域外の企業の株式を主要投資対象とします。
	野村マネー マザーファンド	本邦通貨表示の短期有価証券を主要投資対象とします。
運用方法	ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ-アジア・エクイティークラスA受益証券および野村マネー マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてアジア諸国の株式 (DR (預託証券)、上場投資信託証券および償還金額等が株式の価格や株価指数に連動する効果を有するリンク債等を含みます。) に実質的に投資を行い、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。	
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益 (評価益を含みます。) 等から、原則として基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。	

※店頭デリバティブ取引に関する国際的な規制強化について

店頭デリバティブ取引等の金融取引に関して、国際的に規制の強化が行われており、ファンドが実質的に活用する当該金融取引が当該規制強化等の影響をうけ、当該金融取引を行うための担保として現金等を提供する必要がある場合があります。その場合、追加的に現金等を保有するため、ファンドの実質的な主要投資対象の組入比率が下がり、高位に組入れた場合に期待される投資効果が得られないことが想定されます。また、その結果として、実質的な主要投資対象を高位に組入れた場合と比べてファンドのパフォーマンスが悪化する場合があります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	29.1	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△ 24.8	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	△ 0.2	8.4	9.6	5.9	2.1	2.3	1.2

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年10月から2019年9月の5年間(当ファンドは2016年6月から2019年9月)の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

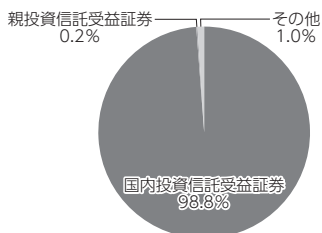
組入資産の内容

(2019年10月28日現在)

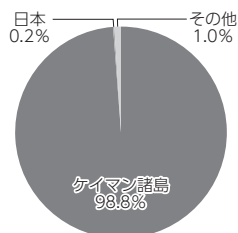
○組入上位ファンド

銘柄名	第9期末
	%
ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスA	98.8
野村マネー マザーファンド	0.2
組入銘柄数	2銘柄

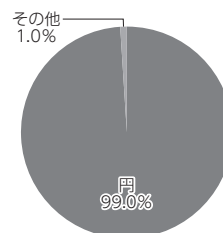
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国別配分は、原則として発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍（邦貨建）の受益証券を含めております。

純資産等

項目	第9期末
	2019年10月28日
純資産総額	53,517,638円
受益権総口数	68,414,042口
1万口当たり基準価額	7,823円

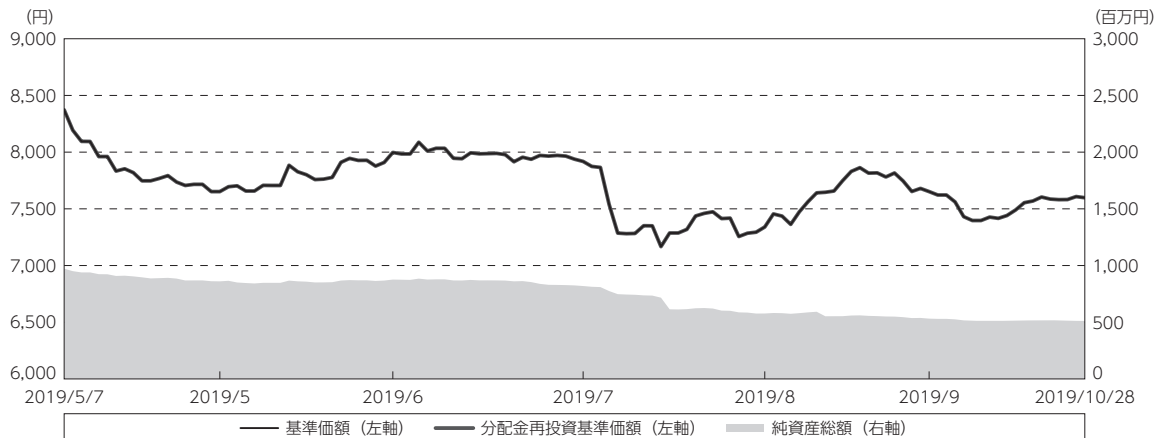
(注) 期中における追加設定元本額は821,708円、同解約元本額は36,668,349円です。

〈Bコース〉

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2019年5月8日～2019年10月28日)



期首：8,373円

期末：7,598円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 9.3% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2019年5月7日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首の8,373円から期末には7,598円となりました。

- ・実質的に投資しているアジア株式からのキャピタルゲイン (またはロス) (価格変動損益)
- ・実質的に投資しているアジア株式からのインカムゲイン
- ・円/投資先通貨の為替変動

1万口当たりの費用明細

(2019年5月8日～2019年10月28日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 40	% 0.523	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率
(投信会社)	(11)	(0.141)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
(販売会社)	(28)	(0.366)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
(受託会社)	(1)	(0.016)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) その他費用	0	0.002	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	40	0.525	
期中の平均基準価額は、7,711円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

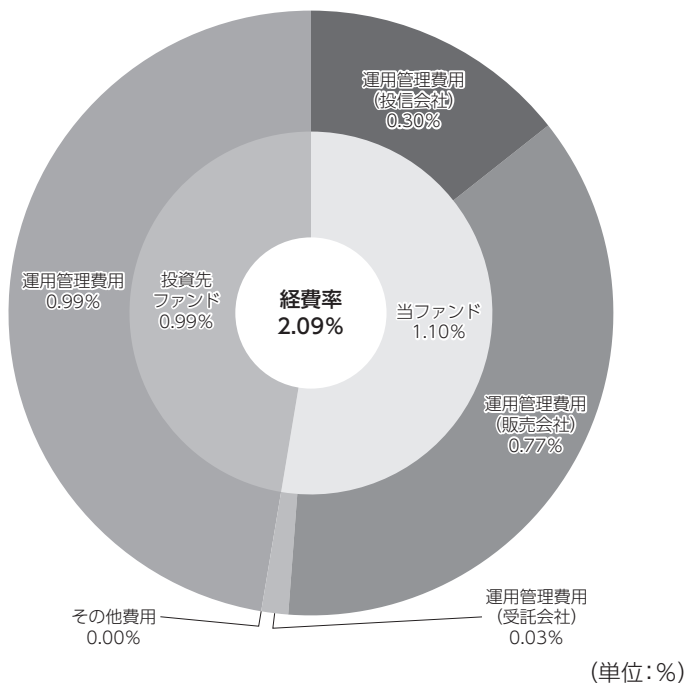
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は2.09%です。



経費率(①+②)	2.09
①当ファンドの費用の比率	1.10
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.99

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2014年10月27日～2019年10月28日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 当ファンドの設定日は2015年6月29日です。

	2015年6月29日 設定日	2015年10月27日 決算日	2016年10月27日 決算日	2017年10月27日 決算日	2018年10月29日 決算日	2019年10月28日 決算日
基準価額 (円)	10,000	8,946	7,674	9,663	7,760	7,598
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 10.5	△ 14.2	25.9	△ 19.7	△ 2.1
純資産総額 (百万円)	3,891	4,325	2,590	2,064	965	511

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2015年10月27日の騰落率は設定当初との比較です。
 (注) 当ファンドは、主として外国籍ファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

投資環境

(2019年5月8日～2019年10月28日)

アジア(除く日本)市場は、中国人民銀行(中央銀行)が金利改革を公表したことや、市中銀行の預金準備率を引き下げたことなどから上昇する場面がありましたが、米中通商協議の先行き不透明感や、協議の長期化観測の高まりなどを背景に、当期間では値下がりとなりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2019年5月8日～2019年10月28日)

[ノムラ THE ASIA Bコース]

[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスB] 受益証券および[野村マネー マザーファンド] 受益証券を主要投資対象とし、投資の中心とする [ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスB] 受益証券への投資比率は、概ね高位を維持しました。

[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスB]

主要投資対象である [ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスB] のポートフォリオにおける株式等組入比率は、2019年12月19日信託終了（繰上償還）に向け、保有有価証券の売却を行ったため、当期末現在で、33.1%となりました。同ポートフォリオにおける業種別配分は、当期末現在で、情報技術、一般消費財・サービス、資本財・サービスなどの比率が高めとなりました。国別配分では、台湾、韓国、中国などの比率が高めとなりました。組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんでした。

[野村マネー マザーファンド]

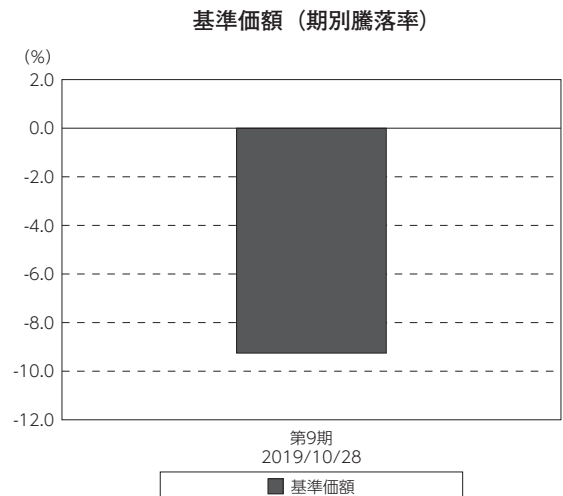
残存1年以内の公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資を行い、あわせてコール・ローン等で運用を行うことで流動性の確保を図りました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2019年5月8日～2019年10月28日)

当ファンドは、主として外国籍ファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

グラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

分配金

(2019年5月8日～2019年10月28日)

収益分配については、繰上償還が決定していることや、基準価額水準等を勘案して見送らせていただきました。

留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり・税込み)

項目	第9期
	2019年5月8日～2019年10月28日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	— %
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	—

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針**[ノムラ THE ASIA Bコース]**

[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢーアジアン・エクイティークラスB] 受益証券および[野村マネー マザーファンド] 受益証券を主要投資対象としますが、投資の中心とする[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢーアジアン・エクイティークラスB] 受益証券は、2019年12月19日信託終了(繰上償還)に向け、受益証券の全売却を行い、現金化されたポートフォリオを維持する方針です。

[ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢーアジアン・エクイティークラスB]

2019年12月19日信託終了(繰上償還)に向け、保有有価証券の全売却を行い、現金化されたポートフォリオを維持する方針です。

組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

[野村マネー マザーファンド]

残存1年以内の公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資を行い、あわせてコール・ローン等で運用を行うことで流動性の確保を図って運用いたします。

日本銀行によるマイナス金利政策のもと、主要な投資対象となる公社債の利回りや余資運用の際のコール・ローンの金利もマイナスとなる中、マイナス利回りの資産への投資等を通じて、基準価額が下落することが想定されますのでご留意ください。

今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、よろしく願いいたします。

お知らせ

該当事項はございません。

当ファンドの概要

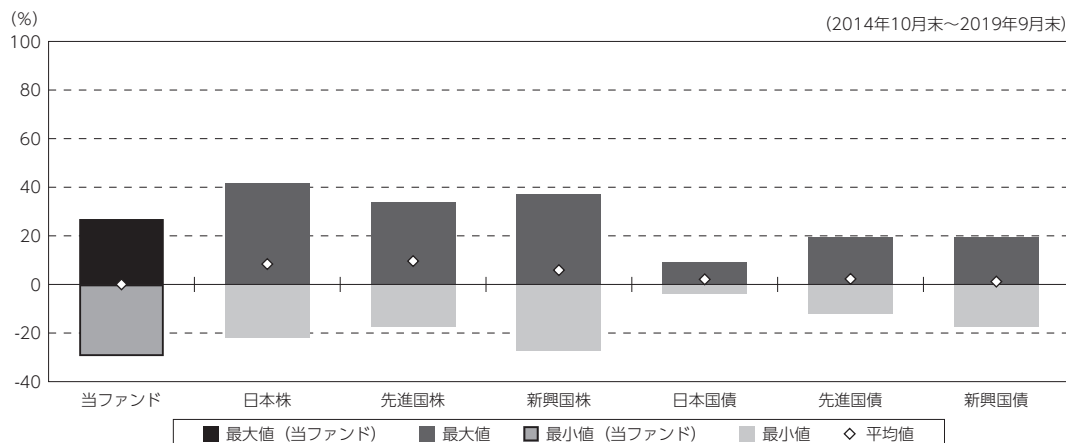
商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2019年12月19日をもちまして繰上償還いたします。(設定日2015年6月29日)	
運用方針	主として円建ての外国投資信託であるノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスB受益証券および円建ての国内籍の投資信託である野村マネー マザーファンド受益証券への投資を通じて、アジア諸国の株式（DR（預託証券）、上場投資信託証券および償還金額等が株式の価格や株価指数に連動する効果を有するリンク債等を含みます。）を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。各受益証券への投資比率は、通常の場合においては、ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスB受益証券への投資を中心としますが、特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびに当ファンドの資金動向等を勘案のうえ決定します。投資する外国投資信託において、組入外貨建て資産について原則として為替ヘッジを行いません。	
主要投資対象	ノムラ THE ASIA B コース	ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスB受益証券および野村マネー マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、コマーシャル・ペーパー等の短期有価証券ならびに短期金融商品等に直接投資する場合があります。
	ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスB	アジア諸国・地域の企業の株式およびアジアにおいて主要な事業活動に従事しているアジア域外の企業の株式を主要投資対象とします。
	野村マネー マザーファンド	本邦通貨表示の短期有価証券を主要投資対象とします。
運用方法	ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスB受益証券および野村マネー マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてアジア諸国の株式（DR（預託証券）、上場投資信託証券および償還金額等が株式の価格や株価指数に連動する効果を有するリンク債等を含みます。）に実質的に投資を行い、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。	
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等から、原則として基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。	

※店頭デリバティブ取引に関する国際的な規制強化について

店頭デリバティブ取引等の金融取引に関して、国際的に規制の強化が行われており、ファンドが実質的に活用する当該金融取引が当該規制強化等の影響をうけ、当該金融取引を行うための担保として現金等を提供する必要がある場合があります。その場合、追加的に現金等を保有するため、ファンドの実質的な主要投資対象の組入比率が下がり、高位に組入れた場合に期待される投資効果が得られないことが想定されます。また、その結果として、実質的な主要投資対象を高位に組入れた場合と比べてファンドのパフォーマンスが悪化する場合があります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	26.9	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△ 29.5	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	0.0	8.4	9.6	5.9	2.1	2.3	1.2

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年10月から2019年9月の5年間(当ファンドは2016年6月から2019年9月)の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

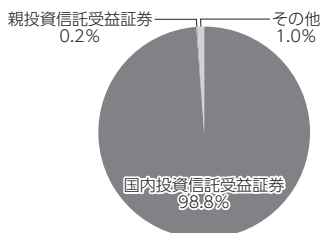
組入資産の内容

(2019年10月28日現在)

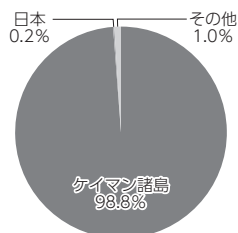
○組入上位ファンド

銘柄名	第9期末
	%
ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢ－アジアン・エクイティークラスB	98.8
野村マネー マザーファンド	0.2
組入銘柄数	2銘柄

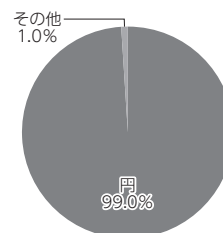
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国別配分は、原則として発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍（邦貨建）の受益証券を含めております。

純資産等

項目	第9期末
	2019年10月28日
純資産総額	511,432,279円
受益権総口数	673,104,358口
1万口当たり基準価額	7,598円

(注) 期中における追加設定元本額は2,055,092円、同解約元本額は489,997,872円です。

組入上位ファンドの概要

ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢーアジアン・エクイティークラスA

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。
運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【純資産価格の推移】



(注) 分配金を分配時に再投資したものと計算しております。

【1万口当たりの費用明細】

(2018年1月1日～2018年12月31日)

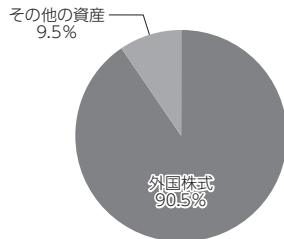
当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

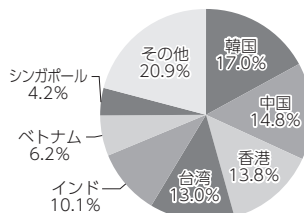
(2018年12月31日現在)

	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	CHINA CONSTRUCTION BANK H	金融	香港ドル	中国	2.5
2	SAMSUNG ELECT CO LTD N/VOTING SHS	情報技術	韓国ウォン	韓国	2.4
3	CHINA MOBILE LTD	コミュニケーション・サービス	香港ドル	香港	2.0
4	SWIRE PACIFIC-A	不動産	香港ドル	香港	1.9
5	TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUF CO LTD	情報技術	台湾ドル	台湾	1.8
6	HCL TECH LTD	情報技術	インド・ルピー	インド	1.7
7	KB FINANCIAL GROUP INC	金融	韓国ウォン	韓国	1.7
8	JARDINE CYCLE & CARRIAGE LTD	一般消費財・サービス	シンガポール・ドル	シンガポール	1.7
9	HAIER ELECTRONICS GROUP CO	一般消費財・サービス	香港ドル	香港	1.6
10	KT CORP	コミュニケーション・サービス	韓国ウォン	韓国	1.6
	組入銘柄数		159銘柄		

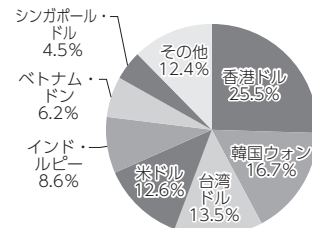
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国(地域)および国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

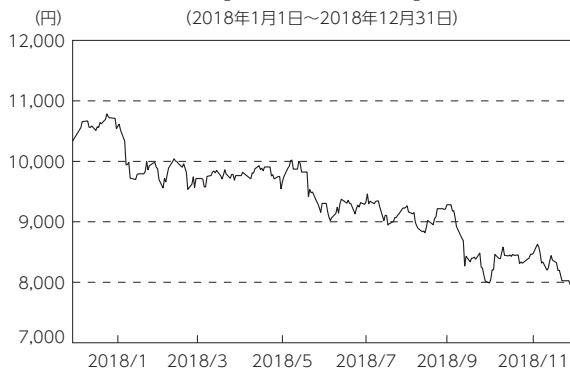
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

ノムラ・マルチ・マネージャーズ・ファンドⅢーアジアン・エクイティークラスB

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。
運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【純資産価格の推移】



(注) 分配金を分配時に再投資したものと計算しております。

【1万口当たりの費用明細】

(2018年1月1日～2018年12月31日)

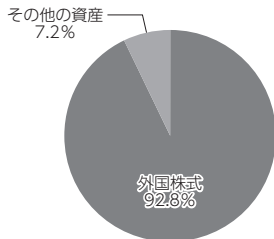
当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

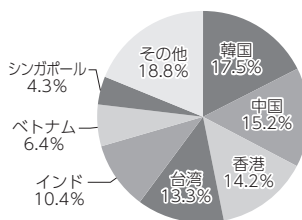
(2018年12月31日現在)

	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	CHINA CONSTRUCTION BANK H	金融	香港ドル	中国	2.6
2	SAMSUNG ELECT CO LTD N/VOTING SHS	情報技術	韓国ウォン	韓国	2.4
3	CHINA MOBILE LTD	コミュニケーション・サービス	香港ドル	香港	2.1
4	SWIRE PACIFIC-A	不動産	香港ドル	香港	2.0
5	TAIWAN SEMI CONDUCTOR MANUF CO LTD	情報技術	台湾ドル	台湾	1.9
6	HCL TECH LTD	情報技術	インド・ルピー	インド	1.8
7	KB FINANCIAL GROUP INC	金融	韓国ウォン	韓国	1.8
8	JARDINE CYCLE & CARRIAGE LTD	一般消費財・サービス	シンガポール・ドル	シンガポール	1.7
9	HAIER ELECTRONICS GROUP CO	一般消費財・サービス	香港ドル	香港	1.7
10	KT CORP	コミュニケーション・サービス	韓国ウォン	韓国	1.7
	組入銘柄数		159銘柄		

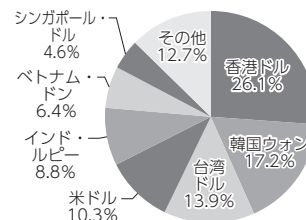
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国(地域)および国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書（全体版）に記載しております。

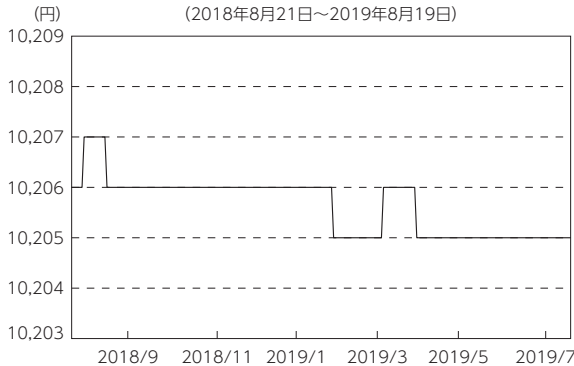
(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

野村マネー マザーファンド

運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【基準価額の推移】

(2018年8月21日～2019年8月19日)



【1万口当たりの費用明細】

(2018年8月21日～2019年8月19日)

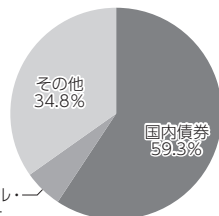
該当事項はございません。

【組入上位 10 銘柄】

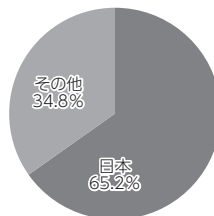
(2019年8月19日現在)

順位	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率 %
1	東海旅客鉄道 第16回社債間限定同順位特約付	社債	円	日本	7.1
2	北海道電力 第319回	社債	円	日本	6.5
3	三菱東京UFJ銀行 第110回特定社債間限定同順位特約付	社債	円	日本	4.7
4	日本高速道路保有・債務返済機構債券 財投機関債第53回	特殊債	円	日本	4.7
5	中部電力 第492回	社債	円	日本	4.1
6	商工債券 利付第771回い号	金融債	円	日本	4.1
7	東京急行電鉄 第69回社債間限定同順位特約付	社債	円	日本	2.4
8	三菱UFJリース 第26回社債間限定同順位特約付	社債	円	日本	2.4
9	電源開発 第28回社債間限定同順位特約付	社債	円	日本	2.4
10	ミツイスミトモF&L	コマーシャル・ペーパー	円	日本	2.4
組入銘柄数		29銘柄			

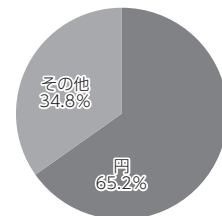
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- (注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。
 (注) 国 (地域) および国別配分は、原則として発行国 (地域) もしくは投資国 (地域) を表示しております。
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書 (全体版) に記載しております。
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、株式会社東京証券取引所 (㈱東京証券取引所) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、(株)東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、(株)東京証券取引所は、ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

○MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)、MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利は MSCI に帰属します。また MSCI は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債の知的財産権は、野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、NOMURA-BPI 国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI 国債を用いて行われる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。

○FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース) は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数は FTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利は FTSE Fixed Income LLC が有しています。

○JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

「JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)」(ここでは「指数」とよびます) についてここに提供された情報は、指数のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてのみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンファメーション、或いは指数に関連する何らかの商品の価値や値段を決めるものでもありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイスを法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は確かなものと考えられますが、JPMorgan Chase & Co. 及びその子会社 (以下、JPM) がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPM やその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持っており、売買を行ったり、またはマーケットメイクを行ったりすることがあり、また、発行体の引受、プレースメント、エージェンシー、アドバイザー、または貸主になっている可能性もあります。

米国の J.P. Morgan Securities LLC (ここでは「JPMSLLC」と呼びます) (「指数スポンサー」) は、指数に関する証券、金融商品または取引 (ここでは「プロダクト」と呼びます) についての援助、保障または販売促進を行いません。証券或いは金融商品全般、或いは特にプロダクトへの投資の推奨について、また金融市場における投資機会を指数に連動させる或いはそれを目的とする推奨の可否について、指数スポンサーは一切の表明または保証、或いは伝達または示唆を行なうものではありません。指数スポンサーはプロダクトについての管理、マーケティング、トレーディングに関する義務または法的責任を負いません。指数は信用できると考えられる情報によって算出されていますが、その完全性や正確性、また指数に付随する情報について保証するものではありません。指数は指数スポンサーが保有する財産であり、その財産権はすべて指数スポンサーに帰属します。

JPMSLLC は NASD, NYSE, SIPC の会員です。JPMorgan は JP Morgan Chase Bank, NA, JPSI, J.P. Morgan Securities PLC., またはその関係会社が投資銀行業務を行う際に使用する名称です。

(出所：株式会社野村総合研究所、FTSE Fixed Income LLC 他)

<お申し込み時の留意点>

販売会社の営業日であってもお申し込みの受付ができない日（以下「申込不可日」といいます。）があります。

お申し込みの際には、これらの申込不可日に該当する日をご確認のうえ、お申し込みいただきますようよろしくお願いいたします。

(2019年10月28日現在)

年 月	日
2019年10月	28
11月	1
12月	—

※2019年12月までに該当する「申込不可日」を現時点で認識しうる情報をもとに作成しておりますが、諸事情等により突然変更される場合があります。

したがって、お申し込みにあたってはその点についても十分ご注意下さい。また、諸事情等による申込不可日の変更は、販売会社に連絡いたしますので、お問い合わせ下さい。

なお、弊社ホームページ (<http://www.nomura-am.co.jp/>) にも掲載いたしております。